

# 公園の花情報 1

7月



## 01 アキカラマツ

まだ蕾ですが、涼しげに揺れる葉は丸い形をしていて独特です。花は夏から秋に見られ、オシベがたくさんある花の様子をカラマツの葉にたとえています。



## 02 コウガイゼキショウの仲間

葉が筍(こうがい)という日本髪(髪飾り)に似ているそうですが、ピンと来る人は少ないかもしれませんね。大きい株に花火のような花が盛りでした。



## 03 コゴメイ

外国からやってきたイグサの仲間、あまりにもイグサと似ているので区別しなかったうちにどんどん増えているようです。イグサより花の枝が長く伸びます。



## 04 コムラサキ

ユキヤナギに混じて植えられたものが花を咲かせています。ムラサキシキブの仲間、お庭でムラサキシキブとして植えられているものの多くはこちらです。



## 05 シマスズメノヒエ

外国からやってきたイネの仲間、繁殖力が強いので[害草]にされてしまいました。雀がタネを食べるかもしれませんが、多すぎて食べきれないのでしょうか。



## 06 セイバンモロコシ

各地で増えている、外国からやってきたイネの仲間です。地下の茎でも増えることができ、大きい株を作るので、これも邪魔者扱いされています。



## 07 セリ

もうこの季節の葉は硬くて食べられません。白い花は小さいので虫眼鏡で見ることをお勧めしますが、花びらがグイッと反り返ったような形になっています。



## 08 タコノアシ

今年も咲き始めました。絶滅危惧種で分布が限られていますが、県内では水辺に比較的多く見られるようです。木道脇で小さな苗もたくさん顔を出しています。



## 09 ツユクサ

半日しか持たない花はあざやかな青い花びらを2枚並べて大きく見せ、その前の黄色いオシベを目立たせて、受粉のために虫を呼ぼうとがんばっています。

# 公園の花情報 2

7月

		
<p><b>10 ネジバナ</b> モジズリともいわれるおなじみの花ですが、花の時期は終わりかけですね。この螺旋状の花は、右巻きと左巻きどちらもありで、わりと自由なようです</p>	<p><b>11 ノブドウ</b> ツル性の草で、もう少しで小さな花が咲きます。野のブドウという意味で、青や淡紅色など、カラフルでかわいい実をつけますが、残念ながら食べられません。</p>	<p><b>12 ヒメガマ</b> ガマとの違いは、茎の上の方の雄花と、その下の褐色のふっくらした雌花との間にすき間があること。葉の幅も狭いので、園内で比べてみてください。</p>
		
<p><b>13 ヒルガオの実</b> ヒルガオは他の株の花粉しか受け付けないためにあまり実ができないとか。実をつけたものは他にも数株あるように見えました。大きい1株かもしれません。</p>	<p><b>14 マコモ</b> イネの仲間で、まだやっと1本咲き始めたばかりです。この葉でお盆の飾り馬を作ったりして、身近にあって昔から人に利用されてきた草です。</p>	<p><b>15 ミコシガヤ</b> 今年は残念ながら昨年のような黄金色の穂並が見られませんでした。でも、この穂の中に小さいタネがぎっしり！来年を楽しみにしましょう。</p>
		
<p><b>16 ムラサキサギゴケ</b> 舌のような形の花ですね。茎がツルのように伸びて広がり、増えていきます。湿ったところに群生していることが多いので、コケといわれたのでしょうか。</p>	<p><b>17 メマツヨイグサ</b> 枝別れが多くて花が小さ目。この仲間ではもっとも多く見られる種類です。夕方から咲くものが多いのですが、気が早いのか遅いのか、朝から咲いていました。</p>	<p><b>18 ヤマユリ</b> 元は公園の柵外にあったものを移植しました。昔この辺りにはたくさんあったと思われますが、だんだん少なくなっています。そっとそのままに、ね。</p>

# 公園の花情報 1

8月



## 01 アメリカアゼナ

中央あたりの白い小さな花がわかるでしょうか。漏斗形で、先の方では少し下唇を突き出したような形をしています。アメリカからやってきた湿地が好きな花です。



## 02 イヌビエ

野生のヒエとでもいいでしょうか。水田の雑草として嫌われるものとよく似ていますが、これは葉がやや薄く、芝生広場の乾いたところでも大きくなっていました。



## 03 ケイヌビエ

イヌビエの中でも毛が目立つものを区別しています。こうして並べてみると、お隣と比べられるでしょう。毛の色は紫褐色のものや緑色のものがあります。



## 04 カントウヨメナ

この暑い盛りでも秋の気配を敏感に感じ取っているようです。今年はこの野菊の仲間を咲かせて園内を彩りたいと思っておりますが、たくさん咲いてくれるでしょうか。



## 05 コガマ

6月のガマ、7月のヒメガマに続いて3種類目のガマです。上が雄花、下は雌花で、ごく小さな花がぎっしりとついているのです。この仲間の花粉は傷に効くそうですよ。



## 06 セリ

花が終わり、トゲのあるような緑色の実になっているものもあります。茎の節から芽を出して増えることは知っていても、実やタネはあまりよく見ていませんね。



## 07 タコノアシ

強い日差しの中に、白い吸盤を見せてタコが足を広げているような独特の形で咲いています。木道の両脇で、まだ伸びかけの若苗もたくさん見られます。



## 08 ツクサ

青い花弁の前の3つの黄色いオシベは花粉を出さない飾り物。前に長く伸びているのがメシベと花粉を出すオシベ。その間にあるものは少し花粉を出して、役割分担しています。



## 09 ツルニガクサ

半日陰の場所で、地下で茎を伸ばして群生します。園内では樹林下の茂みに混じって咲いていました。花時は終わり頃で、名前に反して苦くはありません。

# 公園の花情報 2

8月



## 10 ヌマガヤツリ

水湿地に生えるカヤツリグサの仲間です。草丈が高く、円柱型の花穂の集まりは少し変わった形なので見つけやすいでしょう。これはミクリの近くにあったものです。



## 11 ネムノキ

まだ小さな若木を見つけました。園内の台地の上に、下から花を見ることもできないくらい高い木が何本かあります。これはその子供でしょうか。



## 12 ノゲシ

道端など、どこにでもある草ですが、花も綿毛もタンポポの仲間だろうと想像できますね。野にあり、葉がケシに似ていることからこの名になったそうです。



## 13 ヒヨドリバナ

夏から秋、ヒヨドリの鳴く頃に林の縁や野原で見られます。これは公園の柵外から移植したのですが、まもなく筒型の細い花からたくさんの蕊を出して開くでしょう。



## 14 マツカサススキ

水湿地でも日当たりのよい所に生える背の高い草です。ススキという名でもカヤツリグサの仲間、もう少し開けば「松カサ」らしく見えると思うのですが・・・



## 15 ミズキ

初夏に咲いた白い花が実になり、緑色から淡紅色へとその実が色づいてきました。やがて黒く熟し、鳥に食べられてタネが遠くへ運ばれていきます。



## 16 ミクリ

もうほとんど実ばかりが目につきます。この形が栗のイガに似ていることから名がつけられました。適度な水があることで、ここでは元気に育っています。



## 17 ヤブガラシ

終わりかけの花でも蜜を求めて虫がきています。葉もおいしいのか、虫に食われていますね。人間には邪魔な雑草も、虫にとっては命の草なのでしょうね。



## 18 ヤブミョウガ

葉はミョウガに少し似ていますがツユクサの仲間、林の中の日陰などに見られます。条件が合えば増えるようですが、園内にはそう多くありません。



01 アカメガシワ

少し不気味な感じがしますが、木の実です。視線を上に向けて見つけてください。十分に実が充実して、たくさんの黒い種子がはじけかかっています。



02 イヌホオズキ

道端などで見かける、ナスに似た小さな花です。緑色の丸い実がなり、黒紫色に熟しますが、ホオズキといっても毒があるので口に入れてはいけません。



03 カナムグラ

手を広げたような形の葉をした、とてもよく広がり茂るツル草です。茎にはざらついた毛があり、こすれるととても痛いです。雌雄異株で、雄花が咲きました。



04 カヤツリグサ

茎は三角形で、両端を持って割くと四角い形ができます。この四角い形を蚊帳に見立てています。小さな棒のように見えるものが花穂で、たくさんの小花の集団です。



05 キクイモ

元気なヒマワリのような花ですね。地下にできるイモを利用するため導入されましたがあまり栽培されなくなり、野生化してしまいました。



06 カンガレイ

茎が三角形の、太いイグサのような草で湿った所に生えます。茎の横についているものが花穂で、1本だけ花をつけていました。もう少し増えてほしいものです。



07 ジュズダマ

熟した玉を糸に通して首飾りを作ったことがあるかもしれませんね。緑色の玉の部分で雌花で、横から伸びた穂は雄花。黄色い花粉の袋が見えていますよ。



08 ソクズ

白い花と赤い実がありました。花の所々にある黄色いものは蜜をためてある場所で、これに虫がやってきます。用が済むと右のように緑色に。葉はニワトコに似ています。



09 タカサブロウ

どうして人の名前のような名になったのかはわかりませんが、キクの仲間でやや湿り気のある場所に生えます。園内ではあまり多くは見かけません。



### 10 タコノアシ

もう実になりかかっていますが、この夏の少雨にもめげずこんなにたくさんのお花を咲かせたものがありました。タコの足の数を越えていますね。

### 11 ツルマメ

ツル性のマメという名前通り、豆らしい花ですね。大豆の原種と考えられています。最初に食用にした人は現在のような多用途は想像できなかったでしょうね。

### 12 ヌマガヤツリ

前回でも紹介しましたが、こんなにたくさん出てきたのでうれしくて再登場です。楕円形の花穂はふんわりとして、まるで作り物のようなかわいらしさです。



### 13 ヒョドリバナ

さすがに盛りは過ぎたようですが、それでもチョウが蜜を求めてやってきています。ひとつの筒型の花は5個の花の集まりで、毛のように伸び出ているのはメシベです。

### 14 ヒレタゴボウ

別名アメリカミズキンバイといい、北米原産の外来種ですがこのように美しい花を咲かせるので好まれます。湿地に生え、茎に葉から続くヒレのようなものがあります。

### 15 ヘクソカズラ

少しかわいそうな名前ですが、この草を揉んだ時のにおいを臭いと感じる人もいられるかもしれません。ツル性で、黄褐色に熟す実はリースの飾りにも利用できます。



### 16 ホタルイ

絞り水が豊かで自然度の高い、ホタルがいそうな場所に生えることからこの名になったとか。農薬に対する耐性も弱いと聞くと、大切にしたいですね。(右は花を拡大)

### 17 マツカサススキ

前回に紹介しましたが、さて、松カサらしく見えるようになったでしょうか？少しイメージと違った？いずれにせよ、木道脇で突っ立っていますので見に来てください。

### 18 ワレモコウ

近くの道端から移植したものが虫に食われたりしながらも咲いてくれました。「吾木香」と書くので香りが良いのかと期待しましたが、花は青臭い匂いでした。

# 公園の花情報 1

10月

		
<p><b>01 アオキ</b> まだ青いものですが、実が付いています。寒くなる頃には赤く熟して目立つようになることでしょう。雌雄別株なので、実が付いているのは雌株とわかります。</p>	<p><b>02 アオミズ</b> 日陰の湿地で、やわらかくみずみずしい葉を並べて群生しています。花は葉の付け根に付き、そろそろ咲き始めたようです。</p>	<p><b>03 アキノゲシ</b> 使用前、使用後ではありませんが、今、花と実の両方が見られます。左の花のあと、右の綿毛になって、新しい場所を求めてタネが飛んでいきます。</p>
		
<p><b>04 アシ</b> アシは「悪し」を連想するからと、ヨシ（良し）と呼ぶこともあります。高い茎の上に穂を出して花盛りですが、イネと同じく花びらのない地味な花です。</p>	<p><b>05 アメリカゼナ</b> 1センチ位の小さな花を拡大してみました。淡紫色の部分が筒状になって、先が開いています。似た花が乾いた場所にあつたら、葉や茎を比べてみましょう。</p>	<p><b>06 アメリカセンドングサ</b> キクの仲間できれいな花に見えますが、2本のトゲのある実が服にくっつく聞き、あ、あれだとわかると、途端にイメージダウンしてしまう気の毒さです。</p>
		
<p><b>07 イノコヅチ</b> この実も小さなトゲで服にくっつき、特にセーターに潜り込んだりしたら取れにくいですね。トゲは、タネが少しでも遠くへと旅立つための装備でしょうか。</p>	<p><b>08 ウド</b> もう実になりかけていますが、山菜でおなじみのウドにも花が咲き、実がつきます。この花の形はヤツデの花を連想しますね。同じ仲間です。</p>	<p><b>09 オオイヌタデ</b> イヌタデの大きいもので、茎の節が膨らんでいるものを想像してください。これは貧弱な感じでしたが、白のほか淡紅色の花もあり、花穂が少し垂れます。</p>



### 10 オギ

ススキと区別し難いのですが、やや湿地に多いのがオギで、ススキは乾いた草原に株を作って生えます。お月見に飾るにはこちらの方が豪華かもしれません。



### 11 コゴメガヤツリ

カヤツリグサの中にも何種類もあり、困ったことにどれもよく似ていますが、小さいひと粒をルーペで見ると、これは米粒のような形をしています。



### 12 コセンダングサ

アメリカセンダングサによく似ていますが、これは花の周りの細い葉のようなものが短く、あまり目立ちません。荒地に多く、この実もくっつきます。



### 13 ジュズダマ

まだ花の咲いているものもありますが、熟してきたのか色が変わってきているものもありました。これも秋という季節の色でしょうか。



### 14 シロバナサクラタデ

後方に見える、同じ仲間のポイントタデと比べると白い花が大きくて目に付きやすいのですが、湿地の中央辺りにあり、園路からは見えにくいのが残念です。



### 15 タカサブロウ

キクの仲間で、白いのは花ですが、緑色の塊のようなものの中にはたくさんのタネが並んでいます。タネは黒褐色に熟し、落ちて水に流れて移動します。



### 16 タコノアシ

茎や実が色づいて、やや茹でダコに近くなりました。この夏の少雨や乾燥に耐え、先月の台風で傾いてもしっかりと実をつけています。



### 17 チョウジタデ

全体の感じがタデに似ていることから付けられた名で、イヌタデなどとは別の仲間です。黄色い花は終わり、紅く細長い実が付いています。



### 18 ヌカキビ

たくさんの細い糸のような枝につく細かい花を「ぬか」にたとえています。今が盛りと湿地のあちこちで群生している、イネの仲間です。

		
<p><b>19 ハキダメギク</b> 大きさは5ミリほど。黄色い小花の周りの白い花弁にかわいい切れ込みがあるのがわかるでしょうか。掃き溜めで最初に気付かれたのでこの名になったとか。</p>	<p><b>20 ヒメジソ</b> 名前の通りシソの仲間ですが食用にはなりません。湿地に生え、シソと同じ位小さい花を咲かせます。木道のベンチ辺りでこの小さい花を探してみてください。</p>	<p><b>21 ヘクソカズラ</b> 1か月前の花が、もうツヤのあるべっ甲色の実になっています。この実のあるツルをリース飾りに使いたいなら、そろそろ目を付けておくといいでしょうね。</p>
		
<p><b>22 ポントクタデ</b> 小さいけれどよく見ると美しい花なのに、ポントクは役に立たないという意味だとか。去年は目立たなかったのですが、今年はやや増えたようです。</p>	<p><b>23 ミゾソバ 群生</b> これもタデの仲間、今、湿地ではこんなにたくさんの花が盛りです。</p>	<p><b>24 ミゾソバ</b> 小さな花が10数個丸く集まって咲いています。まるでピンク色の金平糖ですね。</p>
		
<p><b>25 ミゾソバ 白花のもの</b> 花の先が淡紅色のものが多いのですが、中にはこのように全体が白い花も混じっています。</p>	<p><b>26 ヤブミョウガ</b> ツクサの仲間ですが、林内のやや日陰に生え、葉がミョウガの葉に似ていることからこの名になったようです。白い花の後、実が青紫色に熟してきました。</p>	<p><b>27 キノコ [ドクツルタケ]</b> キノコは植物ではありませんが、真っ白くて美しいので紹介します。ただし、名前の通り毒がありますから用心してくださいね。(種名など山口熙さんより)</p>

# 公園の花情報 1

11月

		
<p><b>01 アオジソ</b> 花の時期に紹介できませんでしたが、園内には野生化したと思われるシソがあります。少し香りはしますが、葉が固くて食用には向かないようです。</p>	<p><b>02 アレチウリ</b> 河原や荒地でカボチャのような大きな葉を茂らせ広がるツル草は、これだと思っただけでしょう。とても有害な外来植物とされていて、これは実です。</p>	<p><b>03 イヌタデ</b> 淡紅色をしているので花だと思っていたら、この中にはもう黒いタネができていました。花が咲き終わっても色があせないままタネを包んでいるのです。</p>
		
<p><b>04 ウシハコベ</b> ハコベの仲間でやや大型。春、一斉に開花した後も所々で花を咲かせ、特に今の季節は開花どきだと感じたのか、まとまって咲いていました。</p>	<p><b>05 オオオナモミ</b> この実がくっつくのと取れにくいのは、トゲの先がカギ状に曲がっているから。マジックテープはこれをヒントにしたとか。自然からのアイデアですね。</p>	<p><b>06 オギ</b> この美しい穂並みはもう、この公園の秋の風景に欠かせないものではないでしょうか。艶のある乾燥した茎を使って、ベっ甲色のかわいい簾を作る人もいます。</p>
		
<p><b>07 カントウヨメナ</b> この優しい花をたくさん咲かせられたらと草刈りに気を配りましたが、なかなか思うように咲いてくれないまま、もう花の時期は終わりかけています。</p>	<p><b>08 コセダングサ</b> 左の花は筒状の小花が集まっています。右の黒いタネに付いているトゲのようなものにはさらに小さいトゲがあり、そのトゲでひっかかって運ばれます。</p>	<p><b>09 コムラサキ</b> 公園造成時の植栽に紛れ込んでいたようで、ユキヤナギの中で1株だけ花を咲かせ、実をつけています。造園屋さんが「おまけ」に混ぜてくれたのでしょうか？</p>



10 タコノアシ

草紅葉に染められてタコノアシも良い色に茹で上がりました。実の上部が蓋のようにはずれて中からタネがこぼれます。来年の芽ばえが楽しみです。



11 タンポポ

春以外にも1年中ポツポツと咲き、受粉しなくても結実するという、外国からやってきたセイヨウタンポポです。日本在来のタンポポは少なくなりました。



12 ノゲシ

草取りや刈り払いをされてもいつのまにか芽を出し花を咲かせて、数は少ないながらも次の世代を残そうと、園路端や植栽の間でがんばっている植物です。



13 ハナツクバネウツギ

ほとんど1年中花を咲かせ、公園などではよく植えられています。蜜があるので虫にとってはうれしい花ですが、交配種のためか実をつけません。



14 ヒメジョオン

この花もがんばり屋さんです。園内にそれほど多くはないのですが、いつもどこかでポツと咲いていました。冬の前にもひと仕事といったところでしょうか。



15 ヒヨドリジョウゴ

緑色のツヤツヤした実はやがて紅く色付きおいしそうに見えますが、有毒なので食べてはいけません。ツル性で、トマトの花に似た白い花が初秋に咲きます。



16 ヨウシュヤマゴボウ

左の実の汁で色遊びをしたことがある人もいるでしょう。試しに1本抜いてみると、右のこんな見事な根がありました。それでヤマゴボウといわれるのです。



17 ワレモコウ

柵外から移植したもののうち、虫害がひどかったものに遅ればせながら花が咲きました。バラの仲間なのですが、この花穂からはとてもそうとは思えません。



18 ジョロウグモ(クモの仲間)

とてもあてやかなクモで、比較的高い位置に大きい網を張ります。これは雌で、大きなお腹は卵が成熟してきたから。産卵後、冬までに一生を終わります。

# 公園の花情報 1

## 12月



### 01 イロハモミジ

以前ここに住んでいた人が植えたものでしょうか、芝生広場に1本あります。切れ込んだ葉先をイロハニホトと数えたことからつけられた名だそうです。



### 02 ウシハコベ

8月に花を紹介しましたが、まだ咲いているものがあります。でも、ほとんどはこのように実になっています。中には淡褐色の小さい種子がたくさんありました。



### 03 オオイヌフグリ

陽射しに温められた地面の近くで気持ち良さそうですね。今日は早春に似ているのでしょうか。それにしても夏も秋も花を咲かせる繁殖力は姿に似ず強いのですね。



### 04 オギ

フワフワとした柔らかい穂に見とれました。白い毛の間に点々とある淡褐色の小さいものが種子で、タンポポのように風に乗って飛んでいくのはもうご存知ですね。



### 05 コナラ

モミジほどではありませんがこれも美しく紅葉している、ドングリのなる木です。この木は湿地に向かって斜めに張り出した不安定な姿勢でがんばっています。



### 06 スイカズラ

細い枝を伸ばして他の木にからみつくツル性の木です。初夏、白から黄色に変わる花が2個づつ並んで咲きます。花の蜜を吸ったことのある人もいるでしょう。



### 07 セリ

競り合って生えるからセリといわれ、春の七草のひとつとしておなじみのものです。この有用な草も湿地がないと自生していくことができません。



### 08 ノゲシ

別名ハルノゲシというそうですが、所々で季節にお構いなく見られました。今の季節には数少ない花で、茎の汁がおいしいのかアブラムシが集まっていました。



### 09 ノシラン

9月に白い花を咲かせていたものが実になりました。これから青紫色になります。ランとなっていますが、ジャノヒゲと同じくユリの仲間です。



### 10 ヒメジョオン

まだがんばって花を咲かせています。柳葉姫菊と呼ばれて珍重された時もあったような美しい花ですが、人の好みが変わったら雑草になってしまいました。



### 11 メマツヨイグサ

あの黄色い花からは想像がつかない、これが実です。筒形をしたものひとつひとつの中に褐色の種子がたくさん入っています。



### 12 ヤエムグラ

茎に細かい逆向きの刺があって、ほかのものに引っかかって伸びていきます。これは今年の種子から発芽したもののようで、このまま冬を越すでしょう。



### 13 ヤツデ

華やかで繊細な感じのものが雄花で、そのオシベと花びらが落ちた後、丸い頭だけのような雌花が成熟します。今、雄花と雌花の両方が見られます。



### 14 ユキヤナギ

春に備えて花芽や葉芽の準備が整い、紅葉した葉を落として冬の眠りに入るはずなのに、あれあれ花が咲いてしまいました。暖かくて間違えたかな？



### 15 ヨシ

この湿地では代表的な草です。人の背丈よりもずっと大きくなり、硬くて長い茎はヨシズに使われますが、増え過ぎると他の植物があまり生えなくなります。



### 16 ヨモギ

花のあと、実になった様子です。春の柔らかい葉は草餅に使われますが、それがこんなに大きくなって、とても同じものとは思えないほどです。



### 17 モズのはやにえ

**モズのはやにえとは？**  
木の枝にバツタを刺してありました。これは誰かのいたずらではなく、モズという鳥の習性なのです。モズはときどき、取ったえさをこうして木の枝や刺に刺しておいて後から食べたり、そのまま忘れて干からびさせたりします。理由はよくわかっていませんが、不思議な習性ですね。また、モズは秋にそれぞれ1羽でなわばりを持ちます。オスが先に良い環境をなわばりにし、メスは残った場所をなわばりにするので、なわばりを持っているのがオスかメスか見分ければ、その場所がモズにとって良い環境かどうか分かるそうです。